

鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業における高温・低温物との接触災害の死傷災害発生事例

(2017年)

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
4	11~12	倉庫改修工事のため、鉄骨屋根金物取付作業中に、ガス使用にて金物切断部から火が跳ね飛び火が土間に置いていた資材・保管材料の養生隔間に移り、慌てて消そうと足で数回踏んだ際に、右足脛を負傷した。	65~29	10
5	13~14	内部階段M階~3階の踊場上で間切壁の下地ピースを溶接作業時に保護マスク遮光面を装着し、目線の高さ姿勢で鉄骨梁の上フランジ下側に溶接中、火の粉が跳ねて左耳に入り、音が聞こえにくい状態になった。	39~49	30
6	16~17	炎天下中、もともとあった拝所を同じ敷地内に移動し、拝所を囲う枠を作っている際に、急に気分が悪くなり嘔吐し、水分補給をしながら休憩をし、引き続き作業を続した。その後、体調が良ならず、熱中症と診断された。	16~29	10
7	16~17	屋上RFシンダーcon打設及び仕上げ中午後から打設作業を行い、仕上げ作業があるため休憩がとれず午後からも打設作業、仕上げ作業を同時進行で行った。夕方3名に熱中症の症状が出たため、病院に搬送した。その後残った人員で作業続行したが、その後1名嘔吐し熱中症の症状が出た。さらに被災者がけいれんし倒れたため、作業員などで1階に降ろし、病院に救急搬送した。	45~9	1
7	10~11	デイサービスセンター新築工事現場にて、屋外（屋根なし）で木造平屋家屋の組み立て作業を行っている時に、めまい、吐き気、耳鳴り等を発症した。	62~9	1
		建築現場の建築作業の床掘箇所において、均しコンクリート上で墨出しを行っていた。休憩及び昼休み、そしてそれ以外でも随時水分・塩分補給を行っていたが、気		

7	16~ 17	<p>分が悪くなり座って休憩し、そして日陰で体を冷やす処置を行ったが、症状が悪化し病院へ搬送された。被災者は、元々熱中症になり易く、事業主の判断で前月途中から炎天下を避けて屋根付きの加工場で作業させていたが、暑さも若干和らいでいたもので、久しぶりに現場へ復帰した初日であったため、体が順応できなかったものと思われる。</p>	1 59 ~ 9
---	-----------	--	-------------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html